

腕試しテスト 《解答》

SQL 応用



腕試しテスト《解答》

Lesson1》

1章：CASE 式

CASE 式の説明で、正しいものを1つ選択してください。

- 【A】 DECODE 関数などに比べて、非等価演算子などを使用した複雑な分岐条件を設定できる。
- 【B】 DECODE 関数などに比べてソースコードが長く、コードが読みづらい。
- 【C】 CASE 式は「式」であるため、SELECT の後の選択リストにのみ指定できる。
- 【D】 CASE 式の分岐条件に副問い合わせを含めることはできない。

解答

Lesson1：【A】

Lesson2》

1章：CASE 式

NO 列が1だったら「YES」、それ以外は NULL を返す CASE 式の記述として、一番指示が明確なものを選択してください。

- 【A】 CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'
END
- 【B】 CASE WHEN no THEN 'YES'
ELSE NULL
END
- 【C】 CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'
ELSE NULL
END
- 【D】 CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'
ELSE NULL

解答

Lesson2：【C】

Lesson3》

1章：関数を使用した条件分岐

条件分岐関数の説明で、誤っているものを1つ選択してください。

- 【A】 COALESCE 関数は列順に NULL の存在を確認できる。
- 【B】 COALESCE 関数は NVL 関数と同じように、NULL を他の値に置き換えることができる。
- 【C】 NULLIF 関数は、NULL を他の値に置き換えることができる関数である。
- 【D】 NULLIF 関数を使用すると、ゼロ除算を回避できる

解答

Lesson3：【C】

Lesson4》

1章：MERGE文

MERGE文の説明で、正しいものをすべて選択してください。

- 【A】ON句で、比較する双方の表の列を指定する。
- 【B】UPDATE対象がターゲット表、INSERTの対象となるのがソース表である。
- 【C】MERGE INTO句でビューを指定することはできない。
- 【D】ターゲット表に対するDML文では、表名を明示的に指定しない。

解答

Lesson4：【A】、【D】

Lesson5》

2章：複雑な集計処理

集計処理に関する説明で、正しいものをすべて選択してください。

- 【A】GROUP BY句にCASE式を組み合わせると、任意のグループに分けて集計処理が行える。
- 【B】GROUP BY句で列の別名を指定できる。
- 【C】異なる条件の集計処理をSQL1文で行うことはできない。
- 【D】HAVING句を使用すると、GROUP BY句でグループ化したデータの性質を調査できる。

解答

Lesson5：【A】、【D】

Lesson6》

2章：分析関数

分析関数の説明で、誤っているものを1つ選択してください。

- 【A】分析関数はもとの行数を保ったままグループに対する分析処理を行う。
- 【B】PARTITION BY句を省略した場合、検索結果全体が1つのグループとして扱われる。
- 【C】グループ関数を分析関数として使用する場合、関数名の引数には列名を指定せず()のまま指定する。
- 【D】DENSE_RANK関数を使用する場合、同率順位があっても次の順位を飛ばさない。

解答

Lesson6：【C】

Lesson7》

3章：相関副問い合わせ

相関副問い合わせの説明で、誤っているものを1つ選択してください。

- 【A】相関副問い合わせを実行するには、副問い合わせ内で主問い合わせを参照する。
- 【B】相関副問い合わせはパフォーマンスが問題になるため、通常は使用しない。
- 【C】相関副問い合わせの処理を分析関数で代替できる場合は、分析関数を使用した方がパフォーマンスが良い。
- 【D】相関副問い合わせを実行する際は、副問い合わせと主問い合わせは異なる表から検索する。

解答

Lesson7：【B】

Lesson 8》

EXISTS 条件の説明で、誤っているものを 1 つ選択してください。

3 章：EXISTS 条件

- 【A】 EXISTS 条件に続く副問い合わせの選択リストでは、どのような列を指定してもエラーにはならない。
- 【B】 EXISTS 条件は値の存在有無のみの確認のため、主問い合わせ側の WHERE 句には比較対象列は指定しない。
- 【C】 EXISTS 条件使用時は、内部的に副問い合わせの結果すべてと値の比較を行っている。
- 【D】 EXISTS 条件と CASE 式を組み合わせることで、値の存在有無で処理を分岐できる。

解答

Lesson8：【C】

Lesson 9》

データベースから NULL を排除する方法で、誤っているものを 1 つ選択してください。

4 章：NULL の抱える問題

- 【A】 列に NOT NULL 制約を定義する。
- 【B】 列にデフォルト値を定義する。
- 【C】 列内の NULL をダミーデータに置き換える。
- 【D】 NULLIF 関数で NULL を他の値に置き換える。

解答

Lesson9：【D】

Lesson 10》

NULL の扱いの説明で、正しいものをすべて選択してください。

4 章：NULL との共存

- 【A】 NOT EXISTS 条件に続く副問い合わせの結果に NULL が含まれていると正しい結果が表示されない。
- 【B】 ALL 述語に続く副問い合わせの結果に NULL が含まれていると正しい結果が表示されない。
- 【C】 ソートを行うと、NULL は一番小さな値として扱われる。
- 【D】 外部結合を行うと NULL が発生するため、COALESCE 関数などで NULL を他の値に置き換えることを検討する。

解答

Lesson10：【B】、【D】